

承認No. 851

大島屋

経営革新計画のテーマ

1300年の歴史を紡ぐ大島紬の伝統を生かしたハイブリッド商品の開発・販売

経営革新承認日：令和4年10月31日

承認期間：令和4年1月～令和6年12月

“伝統を守りつつも常に新たな素材を求め、洋装と共存する商品開発に挑戦”

鹿 児島県の伝統工芸品である大島紬の反物製造元として、昭和17年に現代表の祖父が龍郷町で創業し現代表は3代目。令和5年で創業81年を迎え、壽紬工房（製造）と大島屋（販売）の屋号で反物の製造から販売まで一貫して行っている。

日本全体の洋装化という時代の流れで和装全体に対する需要が落ち込んでいる中、伝統的な古典柄を主力とした大島紬の生産は年々縮小し、1970年代のピーク時のおよそ1%余り（1万5千反）まで落ち込んでいる。

代表者はこれまでも、世界各地のシルクと大島紬の糸を融合させ織り上げた新しい生地の開発など、従来の伝統のみにとらわれない新たな大島紬に挑戦してきた。

経営革新計画では、これまでの洋装に対する和装といった対極にとらわれず、洋装とのハイブリッド、大島紬による洋服など、洋装と共存できる商品を拡充させて、「高い独自性」、「新鮮さ」、「お値打ち感」を併せ持つ、魅力ある新商品の企画、開発に取り組むこととした。



従来のイメージを変える大島紬生地

“全国の元気な職人とのコラボによるオリジナル商品開発”

新 たな商品の一つとして、京都府伝統工芸西陣絣職人とのコラボによる「先染めタテボカシ」生地を開発した。本商品は西陣絣職人による高度な技術と大島屋の持つ織りの技術が融合し、先染めでグラデーションを実現した他に類を見ない美しい仕上がりで関心を集めている。

ほかにも、東京都認定の東京洋傘伝統工芸職人とタイアップした日傘、山梨県のネクタイ専門会社とタイアップしたネクタイなどを開発。さらに令和5年度は、県の経営革新支援事業費補助金を活用し、洋装デザイナーと提携した洋装品、さりげなく紬の存在を感じさせるオリジナルの服飾品や小物類の開発に県外企業と連携して取り組んでおり、本年度中に商品化を予定している。



コラボ商品の「先染めタテボカシ」



東西の伝統工芸が融合した日傘

会社概要 代表者：佐藤邦弘

業種：絹・人絹織物業

創業年：昭和17年(1942年)

従業員数：5人

所在地：いちき串木野市湊町883-1

電話番号：0996-36-2865

URL：<https://www.kotobuki-tsumugikobo.com>

“伝統工芸品なのに新しい，そんな大島紬をぜひ！”

大島屋の紬製品は、いちき串木野市のふるさと納税返礼品に登録されている。オンラインで廉価に仕立てまで対応できる強みを活かし、中間マージンを削減，お得感を出し求めやすい価格で顧客へ提供しており，特に，オリジナル柄のストールやネクタイは好評を博している。

また，自社の製品の良さを体感し，その価値を理解している「ふるさと納税返礼品利用者」をメインターゲットとした EC サイトでの直接販売も開始した。いきなり着物ではなく，まずは小物商品から大島紬を身近に感じてもらい，徐々にファンを増やしていきたいと考えている。

併せて，新たに自社 Web サイト・SNS を開設し，新商品の紹介や産地の風景，工房作業の様子など作り手の顔が見え，親近感が湧き着物を楽しめるような情報を発信している。閲覧者の声に直接触れることにより，消費者の好みや声を反映した，新たな商品開発に繋げていきたいと考えている。



人気の高い大島紬ストール



オリジナル柄を多数揃える大島紬ネクタイ

“アジアへの販路拡大にもチャレンジ”

海外，特にアジアについては，ジャパンフェスタの集客状況などから，依然として日本及びその文化への関心は高く，大島紬も，その美しさや繊細さから海外でも一定の評価を得ているが，直ちに着物需要には結びついていない。

令和3年にシンガポール日系大型店（無印良品）で開催された展示会への出展を機に，同国内の展示会に継続出展し，現在，常時20種類ほどの商品を預託するに至っている。商品に対するバイヤーの評価は高く，新たに開発する洋装品や小物商品を含め，今後も出展を続け，ファンを増やしながらか将来の洋装紬販売への足掛かりとしていきたい。



今までにない柄の大島紬小物入れ